ジオパークだより

vol.68

いきもの と 大地の関係

土佐清水には、竜串湾のサンゴやウミウシ、とある山奥にいるトサシミズサンショウウオなど、多種多様な生き物が暮らしています。

生き物の分布には、土地の成り立ちや、地質・地形による要因が少なからずあるもの。大地の多様性が、様々な生き物にとって住みやすい環境を作り、豊かな自然環境を築いています。

専門員森口＆今井の！

いきものバンザイ!!

足摺半島の“青い”サワガニ

サワガニといえば、渓流に住む赤や茶色っぽい色のカニを思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。しかし、実は赤や茶色だけでなく、青や黄色など、様々な色のサワガニがいます。四国各地のサワガニの体色を調査した本「サワガニ“青”の謎」によると、茶色は四国全域に、赤色は高知県中央部から南西部に、青色は高知県では物部川より東に多く分布しています。しかし、足摺半島周辺には、青色のサワガニが飛び地のように分布しているのです。

なぜ足摺半島のサワガニは青いのか？答えはまだわかりません。しかし、そのヒントは足摺半島の大地の歴史にありました。かつて足摺半島は島だったと考えられています。現在、市街地周辺は大地が隆起することで陸となっています。しかし、過去（少なくとも約 13 万、25 万年前の気候が温暖で海水位が高かった時代）には、市街地周辺の地域は海の下に沈んでしまい、足摺半島が四国から隔離されてしまうことがあったようです。

ということは、足摺半島のサワガニは下ノ加江川や加久見川といった近くの川のサワガニとは隔離された状態で長い年月を過ごしてきたことになります。それによって、足摺半島の青いサワガニは近くの川の赤いサワガニとは混ざることなく守られてきたのかもしれません。

(ジオパーク専門員・森口、今井)

『サワガニ“青”の謎』

著者：古屋 八重子
　　山岡 遵
出版：南の風社

身近な自然の不思議を全力で追いかけた楽しい本です。市民図書館で読む事ができますので、ぜひ！

マルバテイショウソウのおはなし

マルバテイショウソウという希少植物の自生地が四国で唯一土佐清水市内にあります。その自生地は、一度消滅してしまいましたが、5 年前に再発見され、自生地がある地区と牧野植物園が協働で保全活動をしています。冬のはじめに花を咲かせるため、12 月に地域住民や関係者を対象にした観察会を行ないました。

この日の主役マルバテイショウソウは、落語家みたいな名前だけれど、とっても繊細そうで、奥ゆかしい見た目。その見た目のとおり、環境の変化にも敏感で、限られた土地にしか自生しないらしい。くるりと丸まった花びらに、ハート型の葉っぱがとてもチャーミング。その姿にしばし見惚れてしまいました。

自然が作り出す造形は、本当に美しいもの。何かを見て、美しいと思う心から、詩は生まれ、そして、同じところから、科学も生まれます。自然の豊かさや多様性は、人間の生命維持だけでなく、文化的豊かさや精神性の根源になるものでもあります。マルバテイショウソウの観察会を通じて、自然を美しいと思う気持ち、大切にしたいなと、改めて思ったのでした。

(事務局員・作田)

マルバテイショウソウ

日本では主に九州南部に自生するキク科の植物。土佐清水では、2000 年代の度重なる豪雨などにより自生地が消滅したが、2015 年に自生しているのが再発見され、保全活動が行われています。

発行
土佐清水ジオパーク推進協議会　〒787－0450 土佐清水市三崎今芝 4032－2
TEL　87-9590　　MAIL　geopark@city.tosashimizu.lg.jp
推進協議会 HP　facebook